

別紙様式6

令和7年度

学校評価表

(中間評価・最終評価)

東広島市立高屋西小学校

学校教育目標			より確かに より豊かに よりたくましく 伸びる ～ 新たな 未来へ ～				経営理念		学校力(組織力・教師力・環境力)を高め、これから社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した教育活動を推進し、次代を担う「人づくり」を行う。					
評価計画						自己評価				学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	2月						
確かな学力	1	主体的に学ぶ児童の育成	豊かに表現する児童の育成	全員が参加する授業づくり	児童の学習意欲 (児童アンケートによる) 【肯定的評価: 85%以上】	85%	86		101	3	児童アンケートは、目標値を上回ることができた。「自分で考えている。」「調べて解決しようとしている。」という項目において、高学年になるとつれて高くなっている。友達と聞くことにおいては、90%を超えており、研究に即している。	B	・学年のデータを知りたい。	自分の考えをもてる授業づくりを行い、勉強が楽しいと思えるように工夫していく。
					児童の学力の定着状況 単元末テストの知・技の平均正答率 【国語 正答率80%以上】 【算数 正答率80%以上】 【理科 正答率80%以上】	80%	国語85 算数86 理科88 全体86		108	4	国語、算数、理科とも総合的にみると、目標値は達成しているが、全体の数値をもう少し上げていきたい。	A	・白鳥タイムを活用するこにより目標を達成した。 ・目標値の変更は必要かどうか検討がいる。	白鳥タイムを使って、前学年の内容を振り返ったり、今学年の内容を定着させたりしていく。確実に定着させて、次学年に送る。
					児童の学力の定着状況 単元末テストの思・判・表の平均正答率 【国語 正答率80%以上】 【算数 正答率80%以上】 【理科 正答率80%以上】	80%	国語87 算数75 理科83 全体82		103	3	思考・判断・表現の正答率において、国語と理科は目標値を上回っているが、算数が下回っている。算数は、既習事項を振り返る習慣をつけさせ、系統性を意識して指導する必要がある。	B	・改善方策で成果を期待する。 ・応用問題が解けるような施策が必要。	知識、技能を活用する場面を授業の中で工夫する。単元の最後に活用問題を準備したり、日々の授業の中で既習事項とつなげたりする。
					読書活動の充実	図書活動の活用	読書に親しむ 読書が好きな児童 (児童アンケートによる) 【肯定的評価 80%以上】	80%	79		99	3	低学年は84.1%、高学年は74.3%で差があった。低学年は定期的に図書室利用の時間を確保し、読書に対する時間を見直しているが、高学年は時間が取れにくく、児童によって差がある。また授業に位置づけている年もあるが、時間を確保するいろいろな本に親しむ時間が増え、効果的である。	B
豊かな心	2	家庭・地域との連携による豊かな心の育成	自らの生活を創る児童の育成	東広島スタンダードの定着	児童の自己評価(あいさつ) (児童アンケートによる) 【肯定的評価 90%以上】	90%	89		99	3	児童アンケートの肯定的評価は、低学年88.4%、高学年90.3%と、低学年の方が低かったが、学校内では、低学年の方がよくあいさつをしているように感じる。生活安全委員会による活動によって、自分から進んであいさつをしようと心がける児童が増えてきた。	A	・家庭の中でもあいさつが習慣づくと良いと思う。 ・委員会の取組を継続していただきたい。	生活安全委員会によるあいさつに関する取組を後期も行。下校時に自分からあいさつすることのよさを話し、学校でも地域でも、自分からあいさつができるようにしていかたい。
					郷土に愛着と誇りをもつ児童の育成	体験活動の充実	児童の自己評価(郷土愛) (児童アンケートによる) 【肯定的評価 90%以上】	90%	93		103	3	1年から6年まで、学校内外の様々な場面で地域の方に関わっていたいというおかげで、郷土に愛着をもっている児童が多い。体験活動を通して学びを深め、関わってくださる方への感謝の気持ちをもつもどきできる。	A
健やかな体	3	健やかな体の育成	調和のとれた体力・運動能力の育成	体育授業の工夫	児童の体力測定値 【令和6年度新体力テスト2項目校内平均値以上】 (柔軟、50m走) 年2回測定	80%	72		90	3	今年度は、1回目の測定で、昨年度を上回っているのは、72%であった。現在、授業前のストレッチ運動や、サークル運動に取り組んでいる。また体育委員会による休憩時間の運動も計画している。	A	・次の測定結果に期待する。	1回目の体力テストの結果は、目標値に近いものだった。2回目の計測を行い、ストレッチやサークル運動を続けていきたい。
				外遊び等の工夫 児童による外遊び・週間の設定	外遊び恒常児童 (児童アンケートによる) 【肯定的評価 70%以上】	70%	53		76	2	前期は、夏の暑さと5・6年生の楽器の練習があり、53%でも高い数値だと考えられる。また、数年前から屋外のみの時間が短くなり、特に低学年は、給食の片づけもあり外出にくい状態がある。	B	・アンケートの問が適切か検討した方がよい。	クラスマッチ(ドッヂボール、繩跳び)を計画しているので、その練習で外遊びをする習慣をつける。
				規則正しい生活習慣の意識化	生活の振り返り (小中連携の取組の活用)	児童の自己評価(生活習慣) (児童および保護者アンケートによる) 【肯定的評価 85%以上】	85%	86		101	3	早寝・早起き・朝ごはん・ゲーム時間等を統合すると肯定的回答が88.7%と目標値を達成した。しかし、ゲームやスマホを使用する時間は、児童の85%が肯定的な回答に対し保護者は68.6%とどちらがいる。自己評価と保護者評価の傾向があることから、児童への声かけとともに家庭への啓発が必要である。	A	・ゲーム問題は何かしら対策をしたい。 ・何らかの対策が必要である。
信頼される学	4	安心・安全な学校づくり	地域・保護者とともに子供の成長を見守る体制の充実	学校だよりやホームページによる取組の発信 市民ポータルサイトの活用	保護者による評価 (保護者アンケートによる) 【肯定的評価 80%以上】	80%	87		109	4	学校だよりを毎月定期的に発行した。また、学年だよりと各学年の学校の様子を月1回以上発行して、児童の様子を伝えることができた。また、HPの更新やポータルサイトの活用によって、必要な情報を地域・保護者に発信することができた。	A	・情報発信は十分やっている。	今後も、学校だより・学年だよりやHPなどで、児童の様子を発信したり、連携をより密にしたりして、地域・保護者とともに児童の成長を見守る体制を充実させていく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示する

■自己評価
4...目標を上回って達成
3...目標どおりに達成
2...目標をやや下回って達成
1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)
A...とても適切である
B...概ね適切である
C...あまり適切でない
D...全く適切でない